

# 株式会社タムラ製作所

## 2009年3月期 決算概要

2009年 5月 15日



- 1. 2009年3月期決算概要**
- 2. 緊急収益改善施策と  
今後に向けたアクション**
- 3. 2010年3月期通期業績予想**

# 1. 2009年3月期決算概要

## 厳しい市場環境 大幅な減収・減益

09/03 期中平均実績為替レート: \$1= 100円 75銭

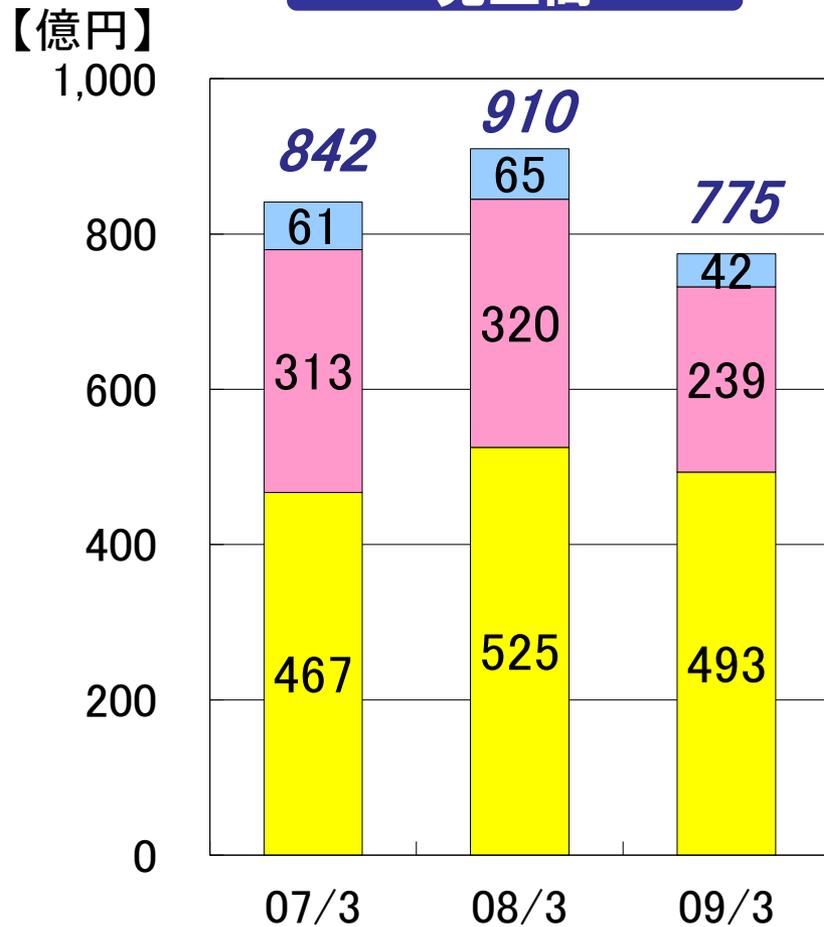
09/03 期中平均社内為替レート: \$1= 101円 40銭

【百万円】

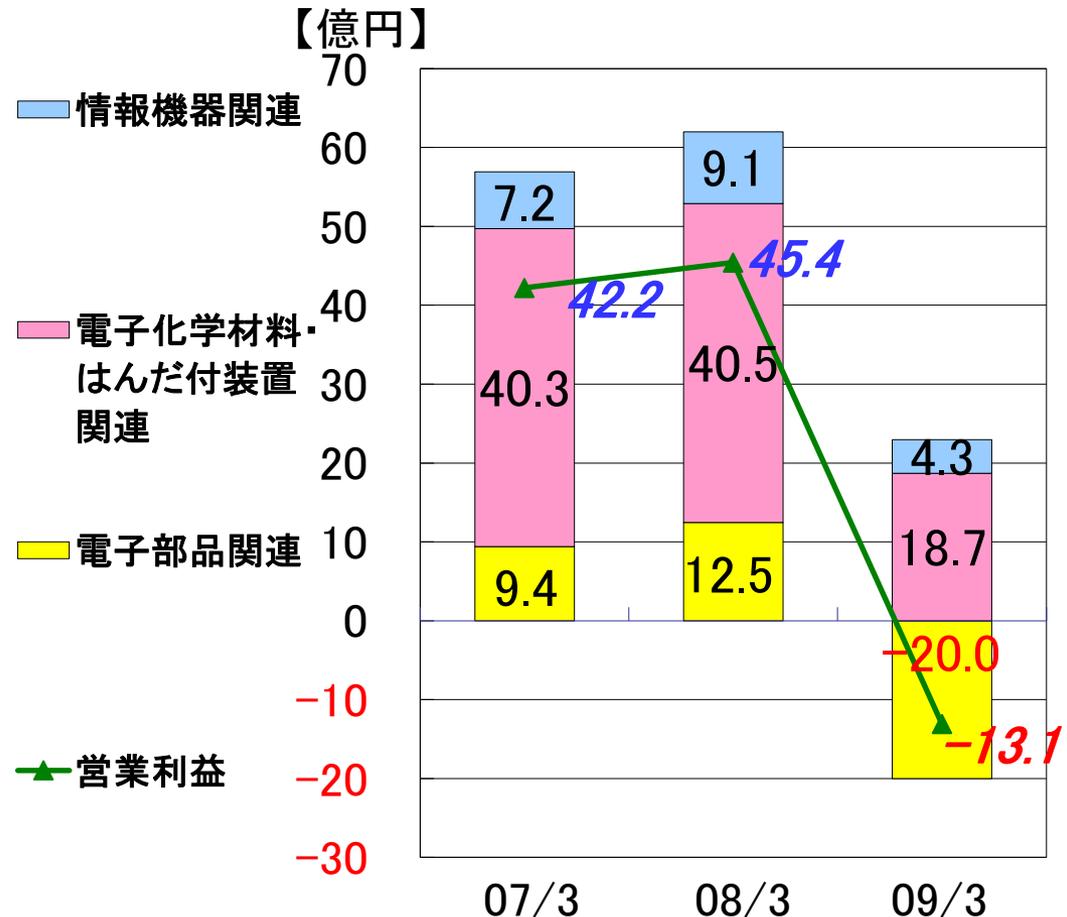
	08/3	09/3	対前年同期比較		コメント
			増減額	増減率	
売上高	90,979	77,507	△ 13,472	-14.8%	光波売上分65億円を除くと 実質 21.9%の減収
営業損益	4,541	△ 1,309	△ 5,851		
営業外損益	△ 630	△ 1,409	△ 778		為替差損 約8億円 支払利息 約4億円
経常損益	3,910	△ 2,719	△ 6,629		
特別損益	△ 678	△ 3,315	△ 2,636		棚卸評価損 約8億円 リストラ関係費用 約20億円
税引前損益	3,231	△ 6,034	△ 9,266		
当期純損益	1,847	△ 7,506	△ 9,353		繰延税金資産取り崩し 約11億円

## 急速な市場環境悪化により、全事業とも大幅な減収・減益

### 売上高

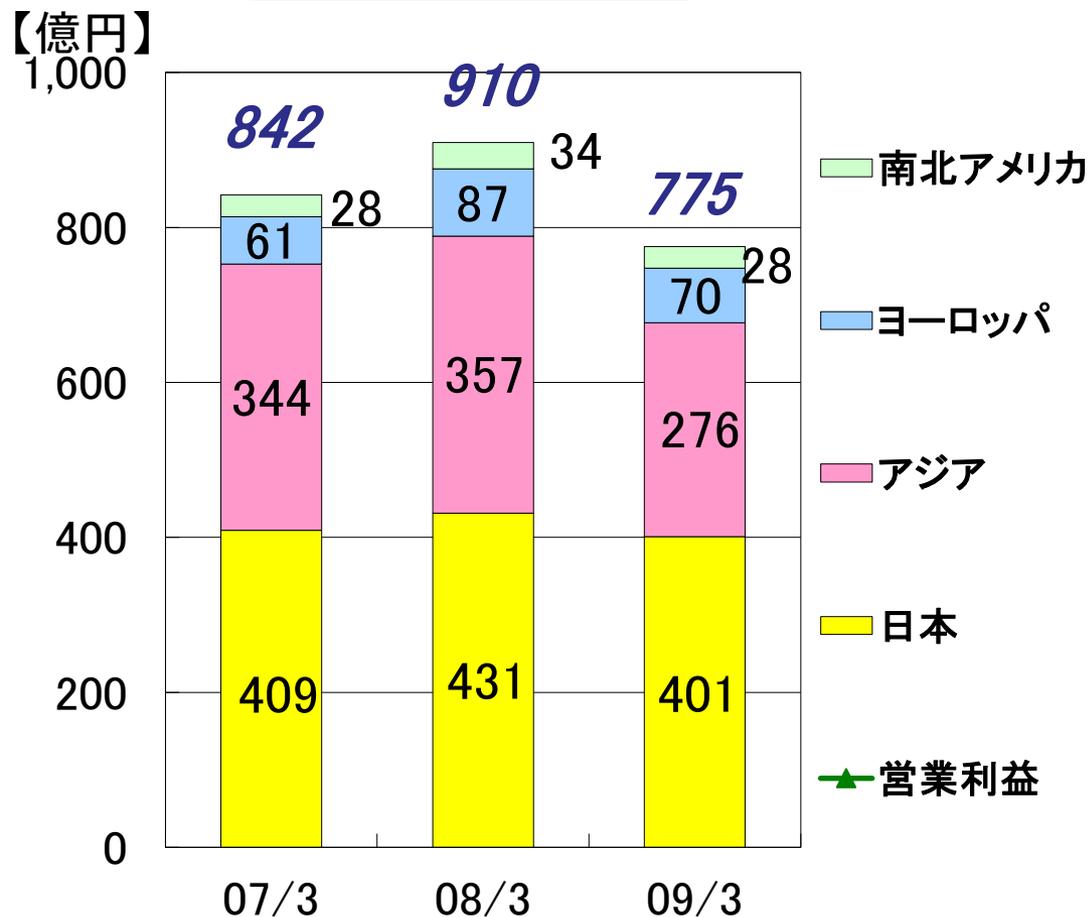


### 営業利益

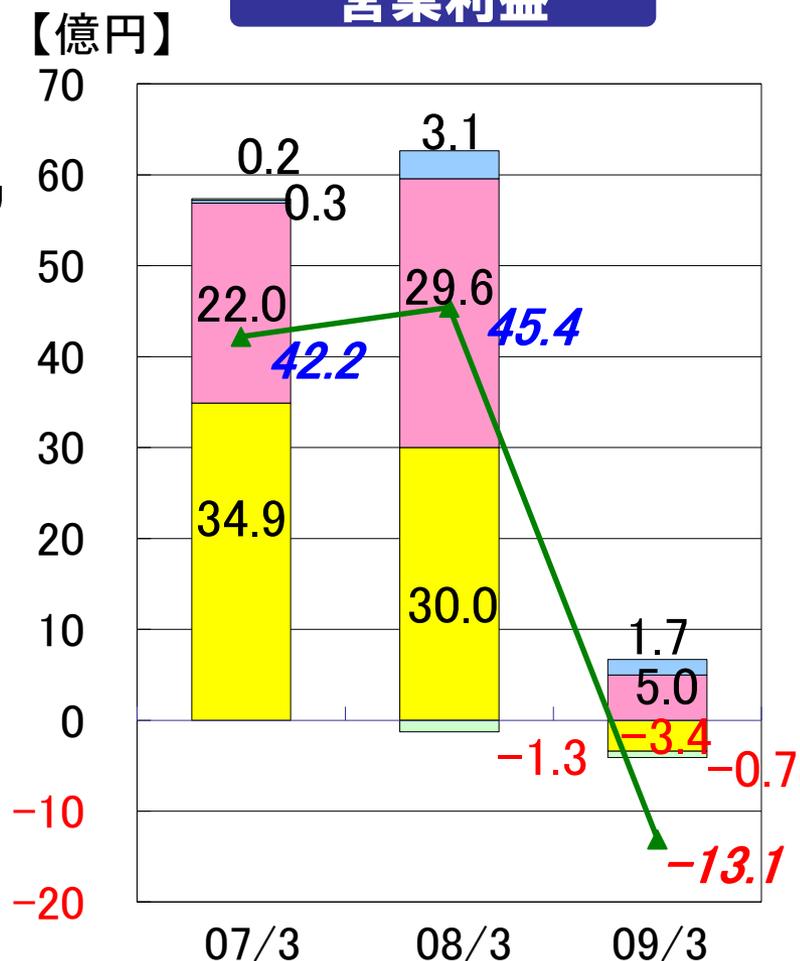


日本・アジアを中心に大幅な減収・減益  
 但し、ヨーロッパは為替の影響等で減収減益も黒字体質を維持

## 売上高



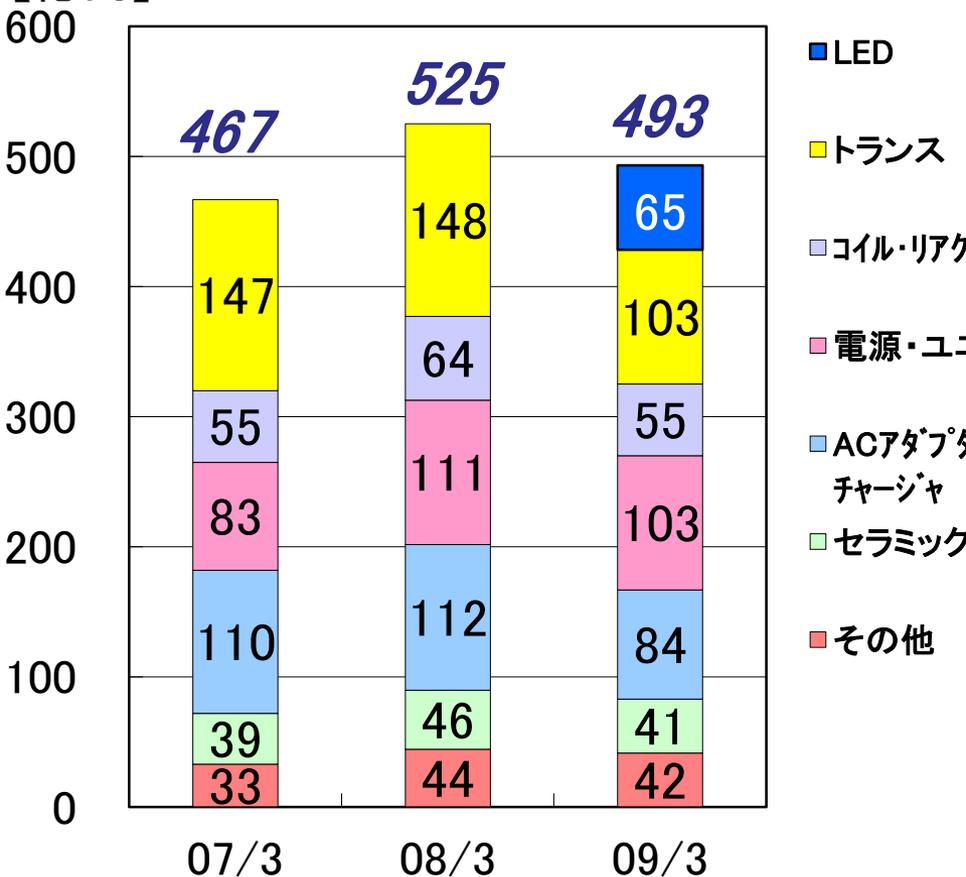
## 営業利益



## LED事業がプラス要因となるも 急激な需要減少に伴い大幅に減収減益

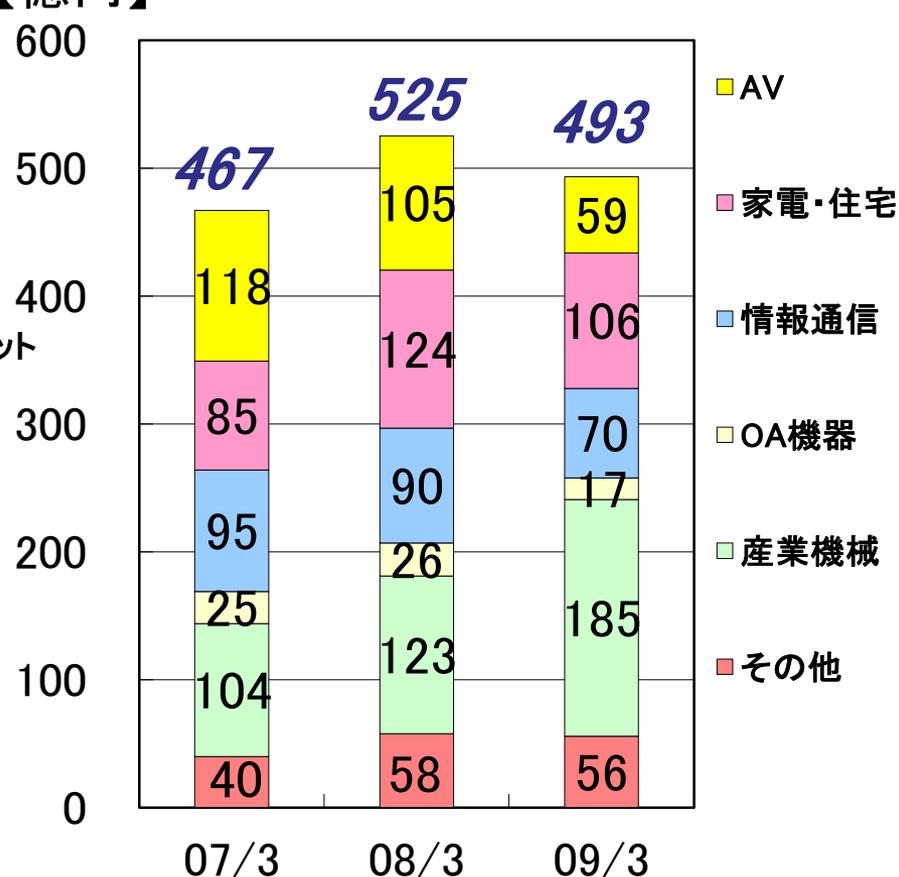
### 製品別 売上高

【億円】



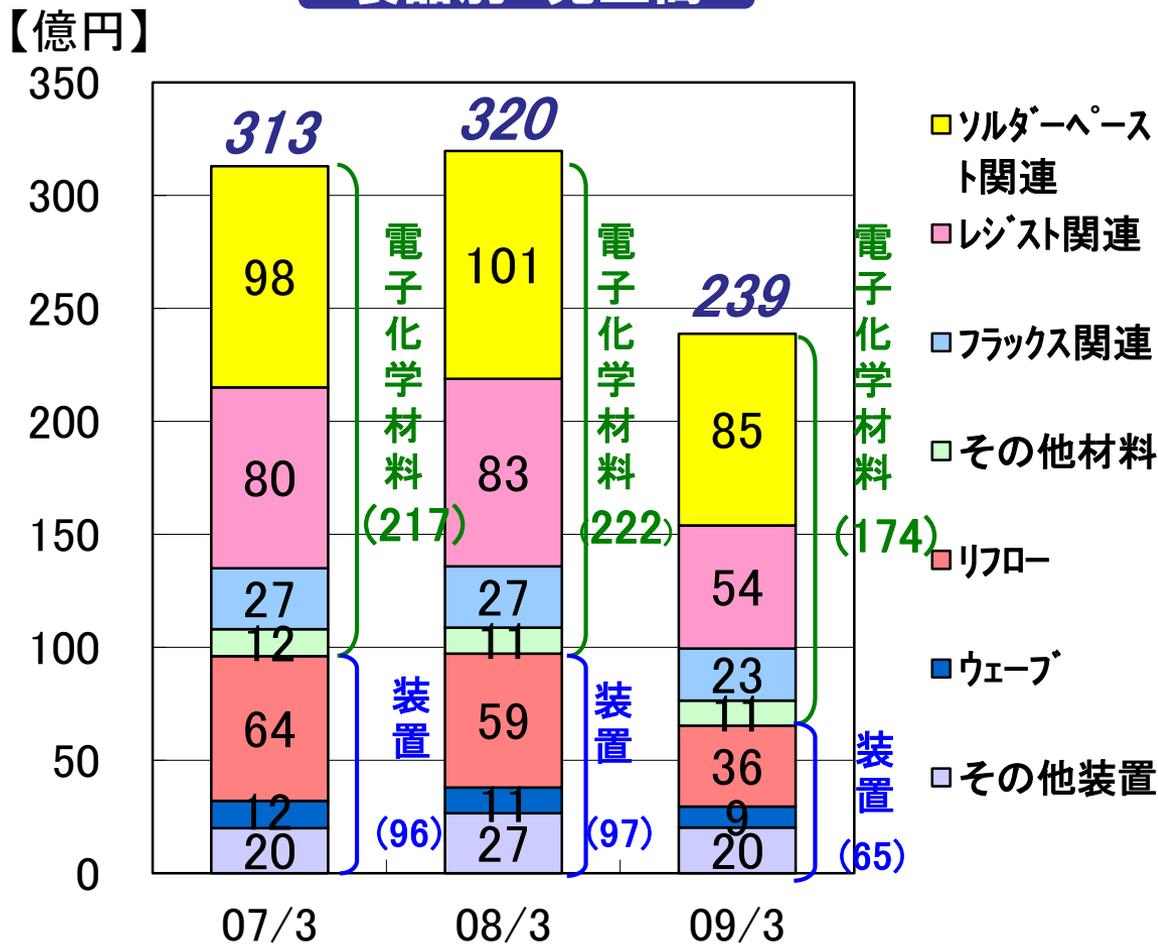
### 市場別 売上高

【億円】

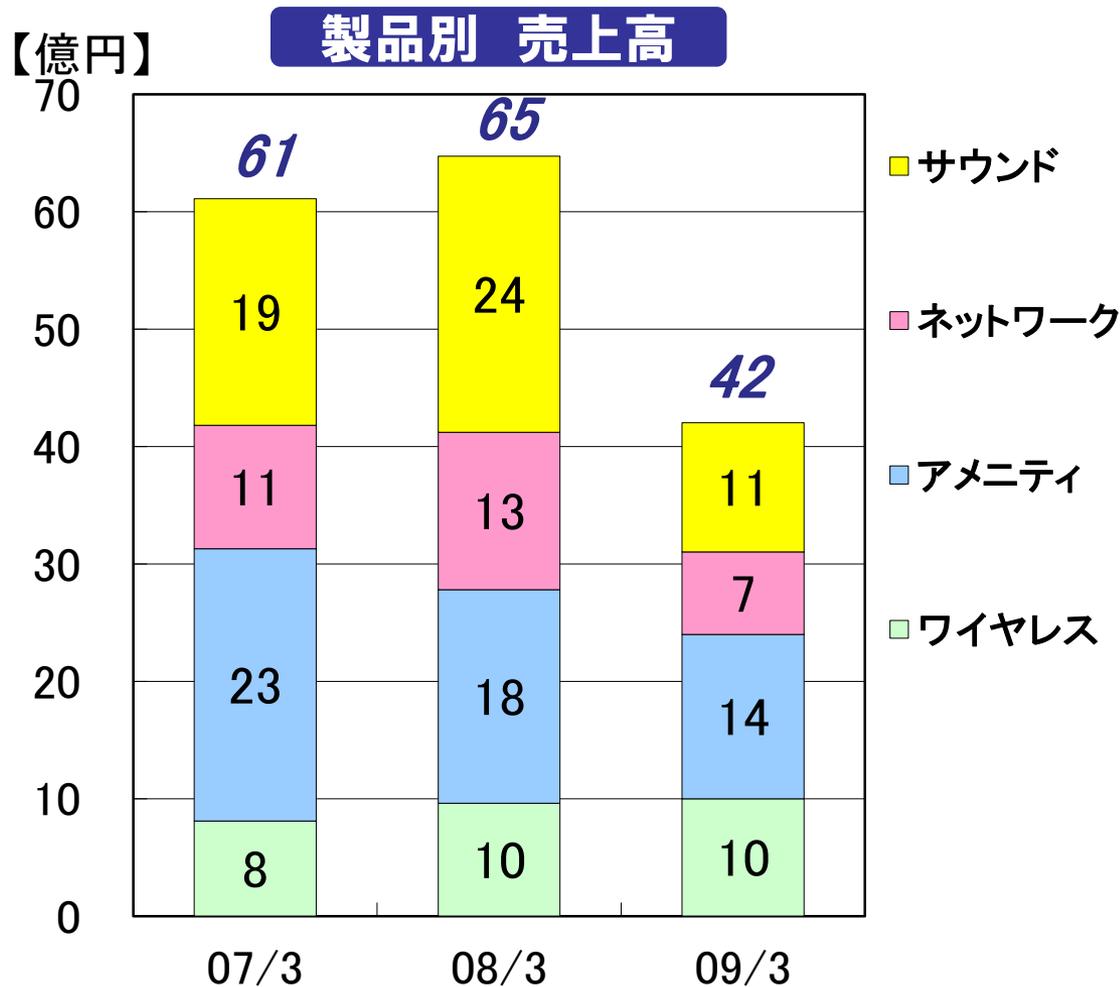


## 設備投資抑制・生産調整の影響を受け 電子化学材料・はんだ付装置関連とも大幅減

製品別 売上高



放送業界の冷え込み、設備投資抑制の影響で売上減も  
ワイヤレス分野の健闘等により、利益は確保



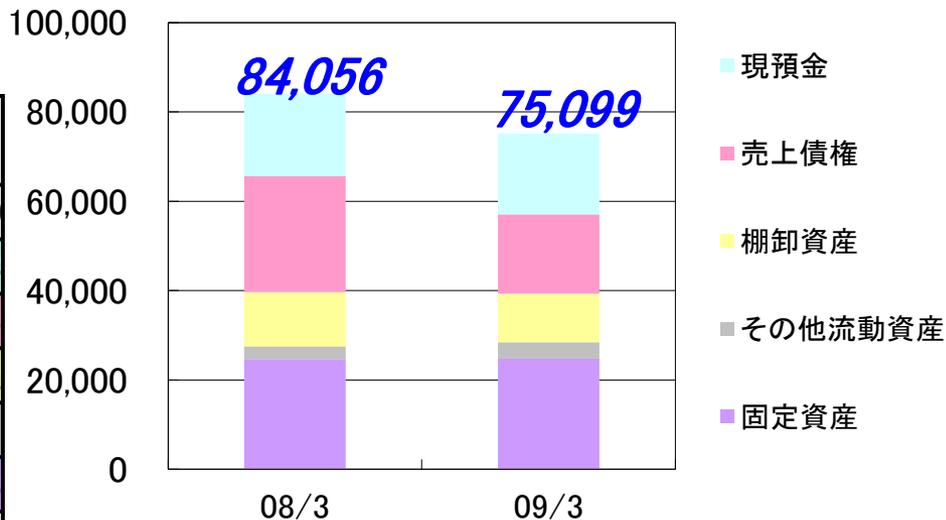
## 純資産が94億円減少するも 現金持ち高は安定的

【百万円】

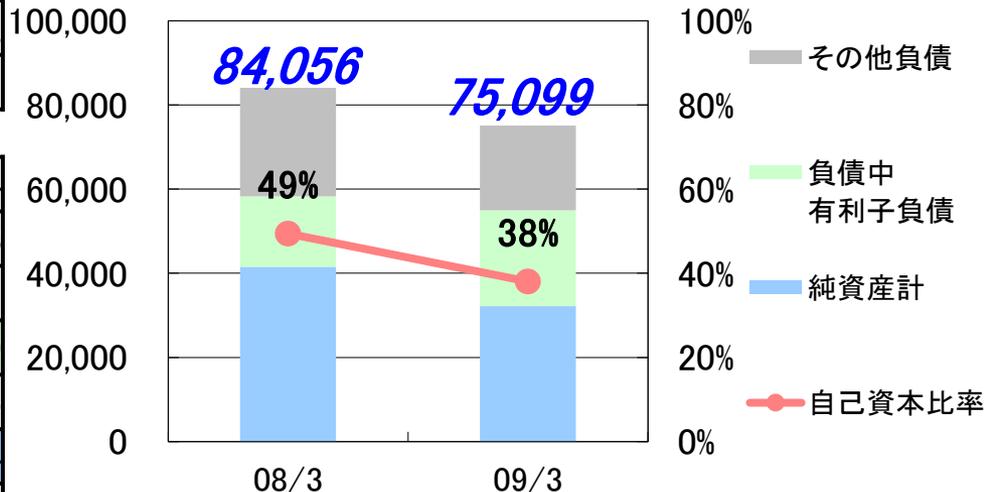
	08/3	09/3	対前年 増減
流動資産	59,339	50,349	△ 8,990
(現預金)	18,379	18,036	△ 343
(売上債権)	26,016	17,730	△ 8,286
(棚卸資産)	12,102	10,870	△ 1,232
(その他流動資産)	2,842	3,713	871
固定資産	24,716	24,750	33
(有形固定資産)	17,223	18,740	1,516
(無形固定資産)	1,444	1,424	△ 20
(投資、その他)	6,048	4,585	△ 1,462
資産合計	84,056	75,099	△ 8,957

流動負債	27,442	21,097	△ 6,344
(仕入債務)	15,790	11,622	△ 4,168
固定負債	15,075	21,837	6,761
(有利子負債)	16,772	22,781	6,009
負債計	42,517	42,934	416
純資産合計	41,539	32,164	△ 9,374
負債・純資産合計	84,056	75,099	△ 8,957

【百万円】



【百万円】



## 営業キャッシュフローは黒字を確保

【百万円】

	08/3	09/3	増減	コメント
営業活動による キャッシュフロー	6,515	2,475	△ 4,040	P/L赤字なるも営業CFは25億円の黒字
投資活動による キャッシュフロー	△ 1,074	△ 4,968	△ 3,894	光波TOB実施△24億円 (投資△45億円 Cash +21億円)
フリー キャッシュフロー	5,441	△ 2,493	△ 7,934	
財務活動による キャッシュフロー	△ 1,857	3,468	5,325	・長期借入金新規調達 +43億円 ・自己株取得△22億円(5百万株、6.66%)
キャッシュの増減	3,919	30	△ 3,889	
キャッシュの残高	18,064	17,907	△ 157	

\* 加えて、期越え4月に35億円資金調達・確保

## 2. 緊急収益改善施策と 今後に向けたアクション



<今を生きるために> 全員参画で緊急対策をスピーディーに実施

<今だからできる> 未来を見据えた構造改革に着手

未来の収益源の育成を <今から> 一層加速

## ① 費用流出の最小化

目的  
収益改善とキャッシュ確保

- (1) 人員規模の適正化
- (2) 労務費経費削減
- (3) 不採算(事業・拠点)の整理



## ② 経営体制再構築

目的  
時代の変化に素早く対応できるグループ経営体制の確立

- (1) 国内外拠点の集約
- (2) 間接機能の集約
- (3) 商流の簡素化



## ③ 高付加価値事業拡大

目的  
市場が求める高付加価値商品で売上・利益を確保

- (1) 車載市場への参入・拡大
- (2) LED関連事業の強化・拡大

# 09年度は「攻める」

市況回復時  
いち早く飛躍へ

# ①費用流出の最小化

※金額・人数等は概数

## (1) 人員規模の適正化

市況の変化に迅速対応

08年	10月	11月	12月	09年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
-----	-----	-----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	--

・グループ総従業員数の変化（パート・派遣、非連結子会社含む）



対08年9月末 **2割削減**



**3割削減**



人員規模の適正化

海外工場を中心とした人員削減

国内外事業所再編による人員減

パート・派遣削減

配置転換

採用抑制

戦略事業への人材集中

例外措置

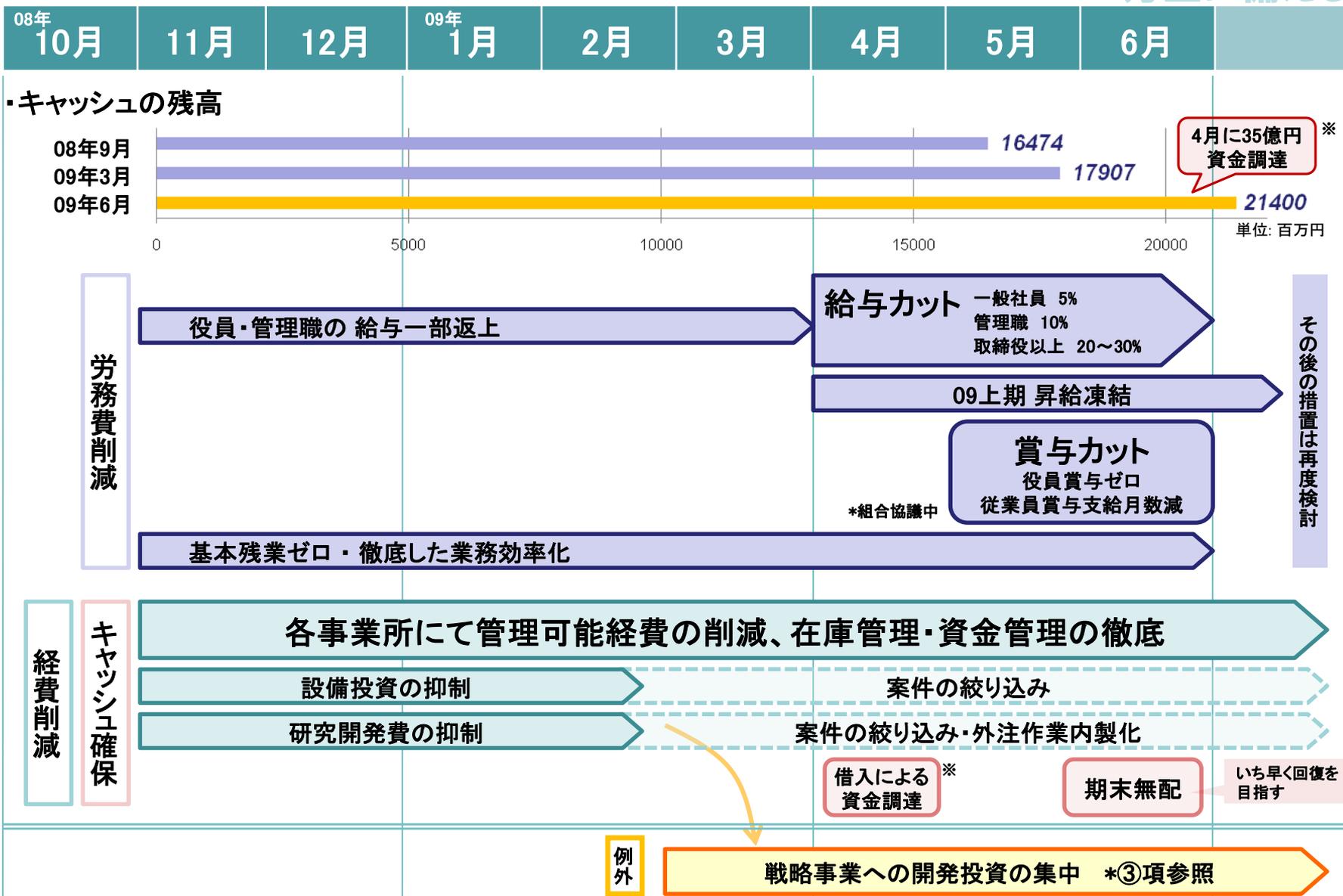
技術系2010年新卒採用は例年並を予定して採用活動

# ①費用流出の最小化

※金額・人数等は概数

## (2) 労務費経費削減・キャッシュの確保

不透明な経営環境に対し  
万全に備える



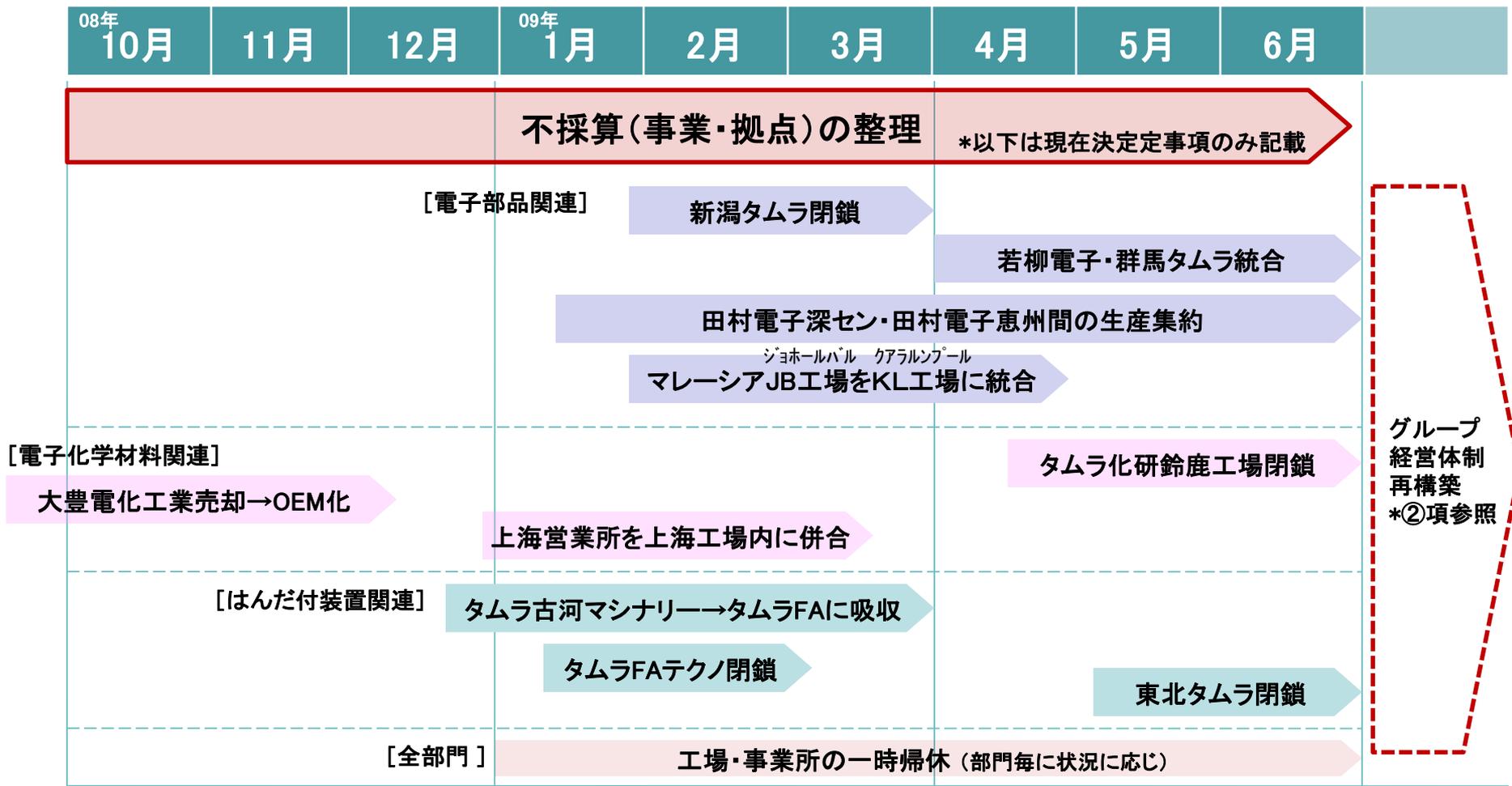
# ①費用流出の最小化

※金額・人数等は概数



## (3) 不採算(事業・拠点)の整理

赤字脱却のための緊急体制見直し



①費用流出の最小化 “アクション(1)～(3)” により  
2009年度 期待する効果

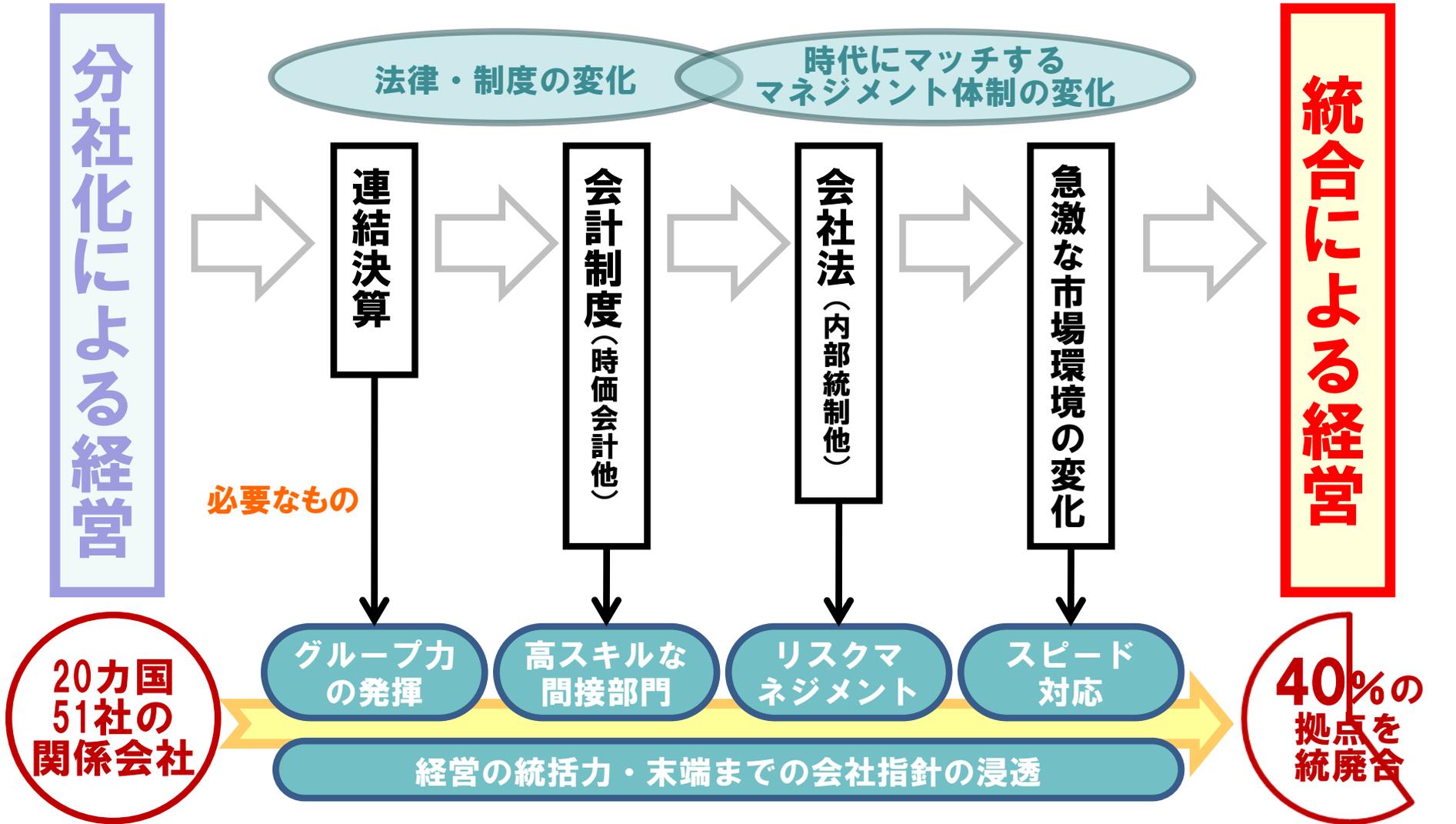
10億円 以上

# ②経営体制再構築

これまでの  
TAMURA Way

グループ統括力とスピードが 成果拡大のキーとなる時代

これからの  
TAMURA Way



## タムラの将来の拡大のためのビジネス基盤の再構築

- (1) 国内外拠点の集約
- (2) 間接機能の集約・効率化
- (3) 商流の簡素化

今後の市場環境変化に  
素早く対応できる

グループ経営体制を先取りして確立

### 目指すはSimple Management

経営資源の再配分

組織の命令系統の明確化

資源の有効活用

内部統制力の強化

固定費の削減

商流の簡素化

業務の効率化・コスト削減

資金管理の強化

②経営体制再構築 により

2009年度 見込まれる効果 **10億円** 以上

\* 上記には ①費用流出の最小化 による効果も一部含む。また、09年度はリストラ費用等も発生。

\* 今後は **20億円** / 年 の削減効果を目指す。

## (1) 車載市場への参入・拡大

時代が求める環境市場へ拡大

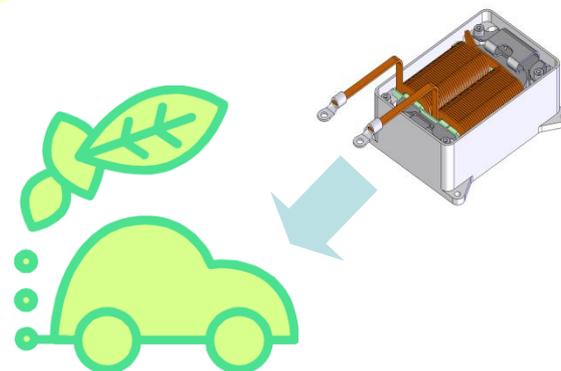
電子化が進む自動車業界のニーズに対応

### 1) 電子部品の量産開始

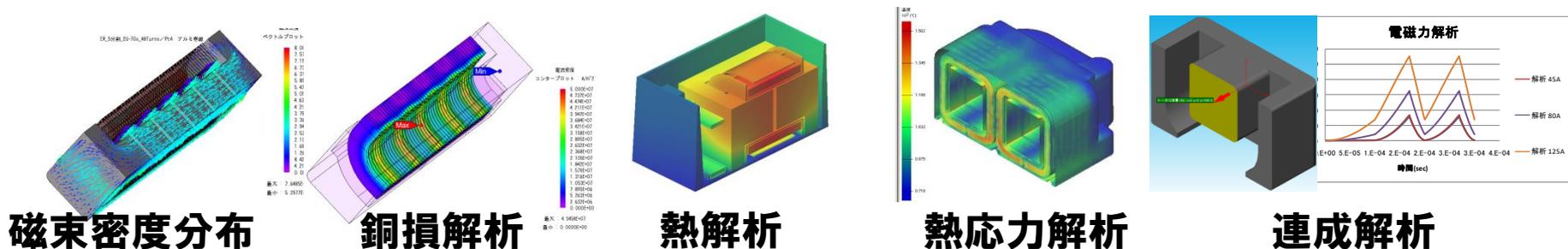
- ・ハイブリッド車・電気自動車などの電力変換器部に搭載されるトランス・リアクトルを中心とした巻線部品
- いよいよ2009年度より本格量産

2009年度 売上見込み

# 30億円以上



- ・車載市場で評価されるタムラのシミュレーション技術力



### 2) 鉛フリー溶剤ペースト・はんだ付装置の拡販

- ・自動車向けに使用される鉛フリー溶剤ペーストでシェアアップ
- ・車載市場向けはんだ付装置の拡販

## (2) LED関連事業の強化・拡大

1) 次世代LED製品のコア技術開発の加速

——— 酸化ガリウム等

### “LEDデバイス開発プロジェクト”

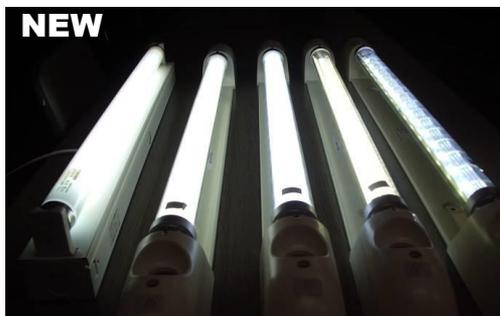
タムラコアテクノロジーセンター LED開発室  
+ 光波 光事業推進室

タムラ製作所 狭山テクノパークデバイス棟内に新設

タムラ・光波の優秀な人材を集結し、設備も充実  
4月より本格始動

## (2) LED関連事業の強化・拡大

### 2) グループ総合力によるLED応用製品・周辺製品の開発



蛍光灯型LEDランプ



電球型ランプ



街路灯

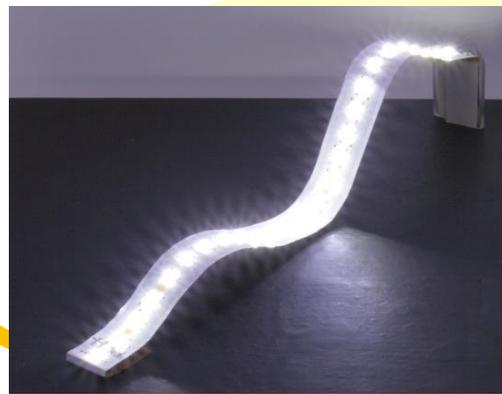
電源技術 + LED

情報通信技術  
+ LED

電子化学材料  
+ LED

# 時代が求める 環境市場へ拡大

LEDをキーにタムラの総合力で未来を拓く



LED用白色反射材



可視光通信

### 3. 2010年3月期 通期業績予想と事業戦略

市場環境の回復は非常に緩やかで時間を要する見通し  
 シンプル・マネージメントの実現に向けた構造改革を実践し  
 戦略事業・新規市場への資源集中と効率化を図り、黒字化を目指す

## 損益見通し

10/3 計画為替レート \$1 =95 円

【百万円】

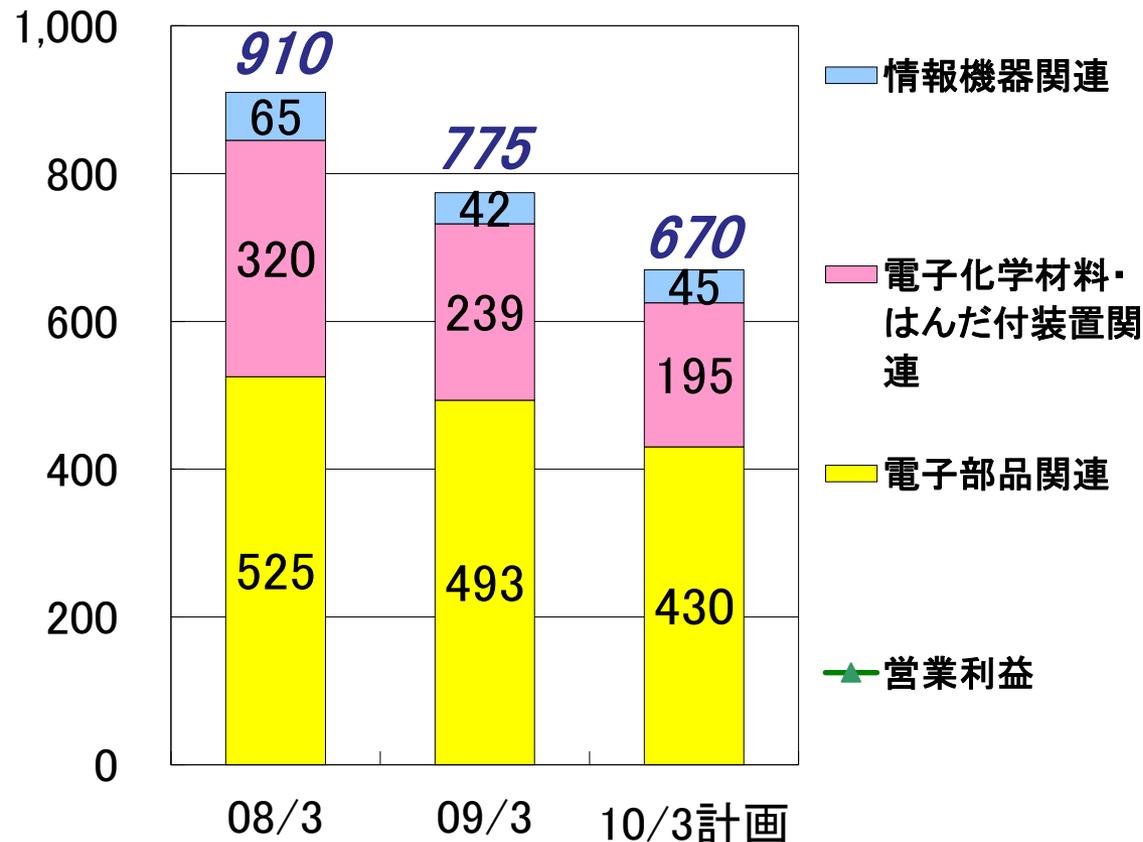
	09/3	10/3 (計画)	対前年同期比較	
			増減額	増減率
売上高	77,507	67,000	△ 10,507	-13.6%
営業利益	△ 1,309	1,000	2,309	-
経常利益	△ 2,719	500	3,219	-
当期純利益	△ 7,506	100	7,606	-

\* 配当については2009年度は未定

各事業セグメントとも厳しい市場環境ではあるが  
ニーズの高い環境対応市場や戦略事業を中心に収益改善に注力

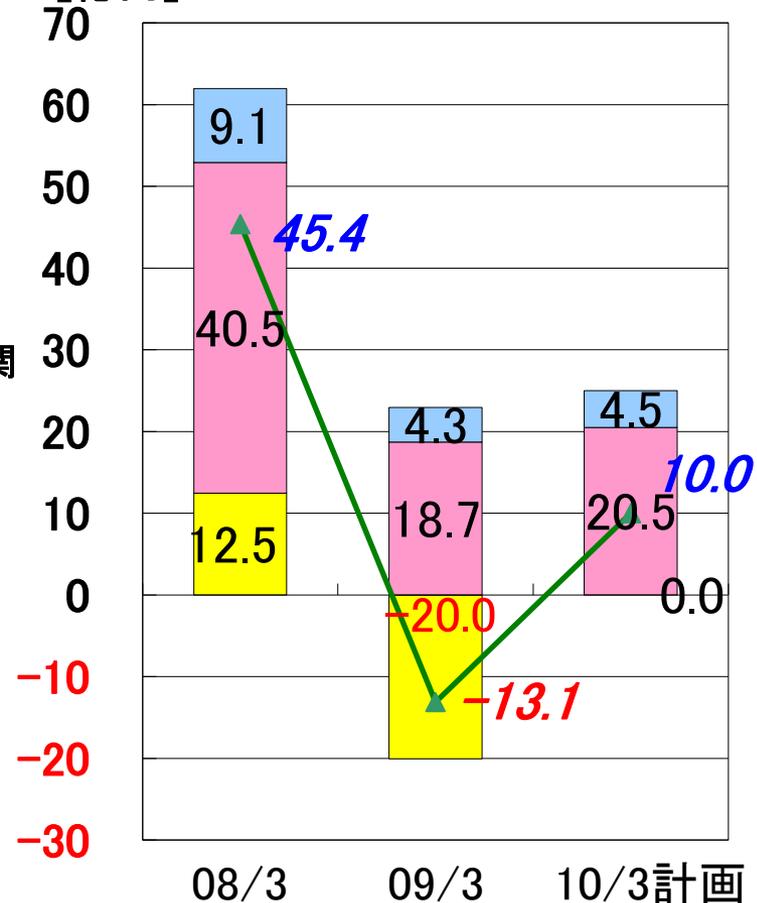
## 売上高

【億円】



## 営業利益

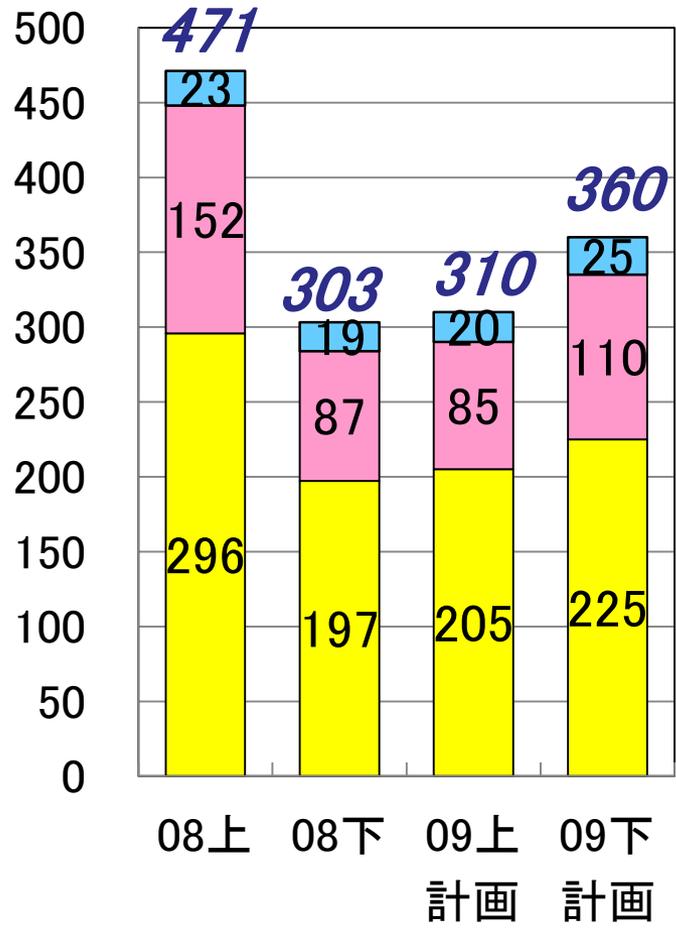
【億円】



## 下期に向け体質改善本格化、2009年度黒字化を目指す

### 売上高

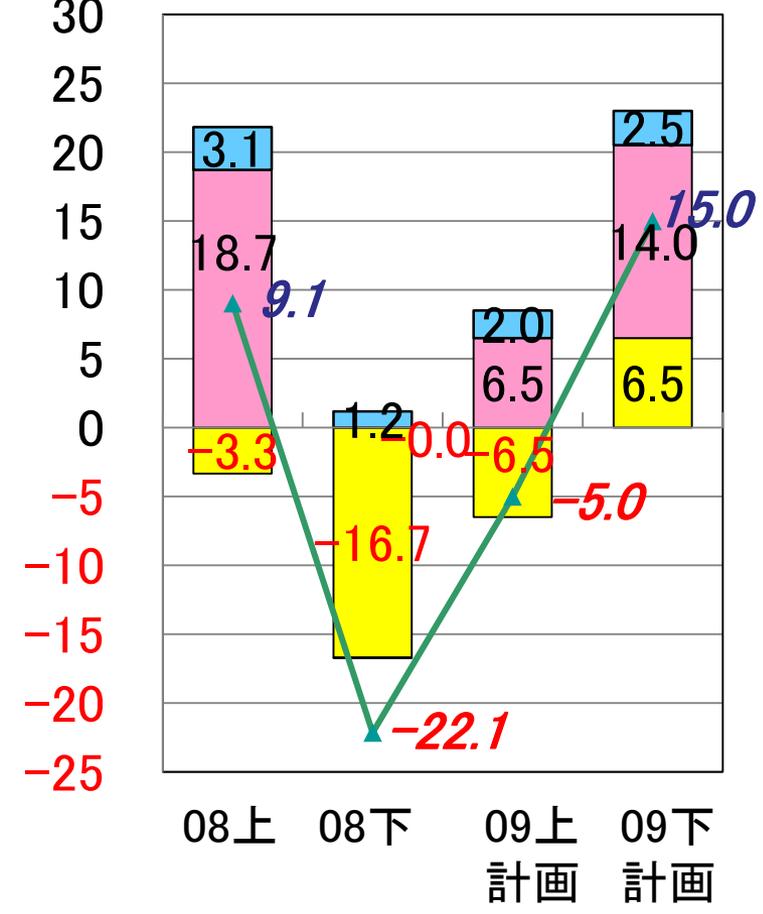
【億円】



### 営業利益

【億円】

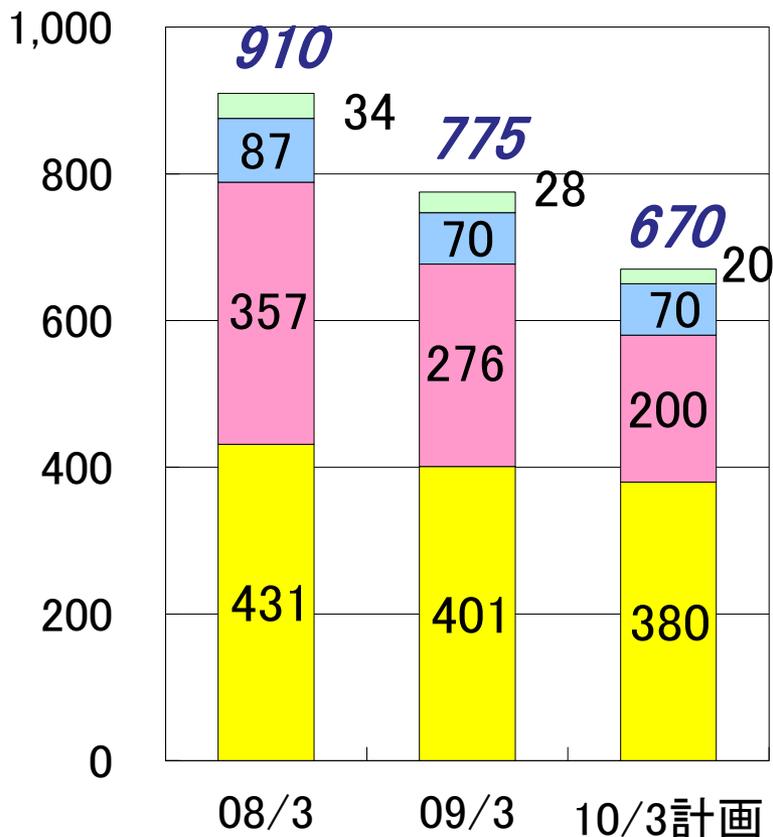
- 情報機器関連
- 電子化学材料・はんだ付装置関連
- 電子部品関連
- 営業利益



日本・アジアにおける大幅な生産体制の見直しを実践し、各地域での収益体質の確立を目指す

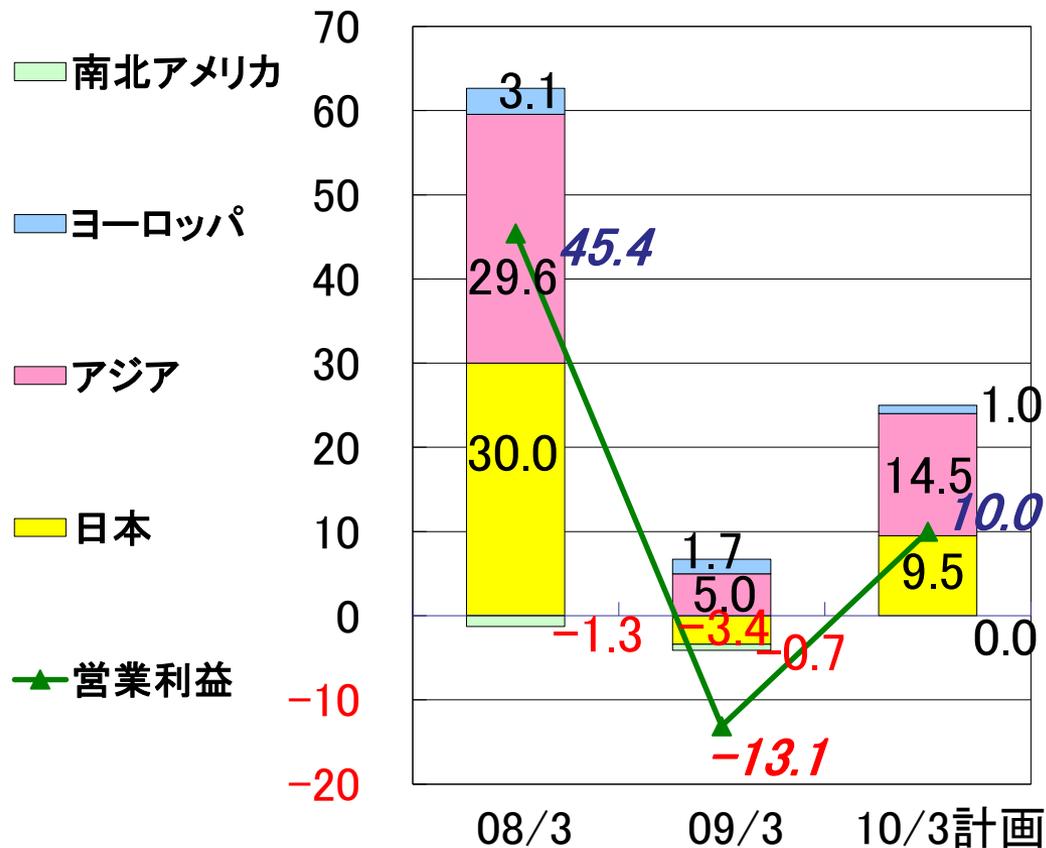
## 売上高

【億円】



## 営業利益

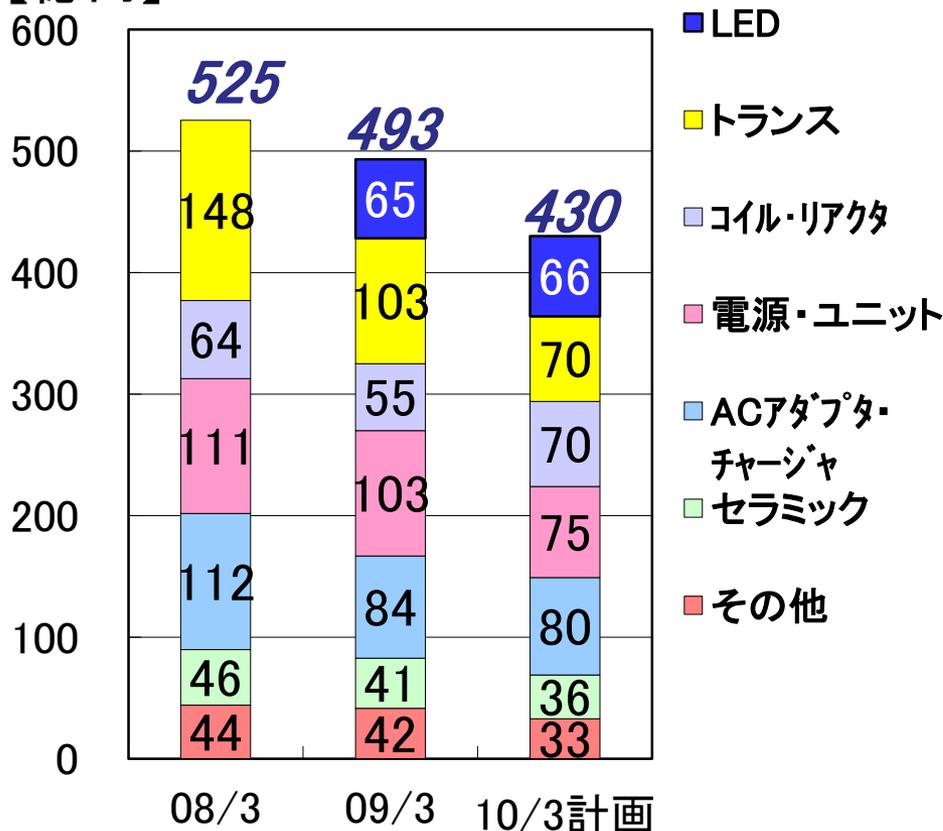
【億円】



- 環境対応市場向け製品の拡大(車載向け製品・LED応用製品など)
- 既存市場・既存製品群については集中と選択による競争力の強化
- 国内外の生産体制の再構築によるスリムな体質の実現と収益力の向上

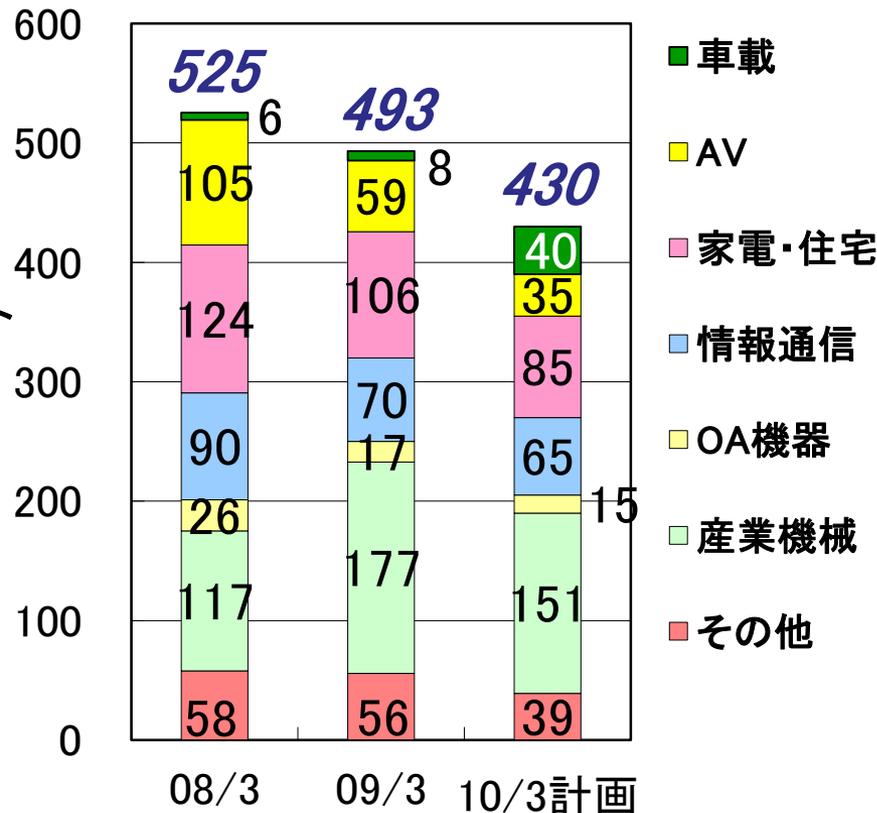
## 製品別 売上高

【億円】



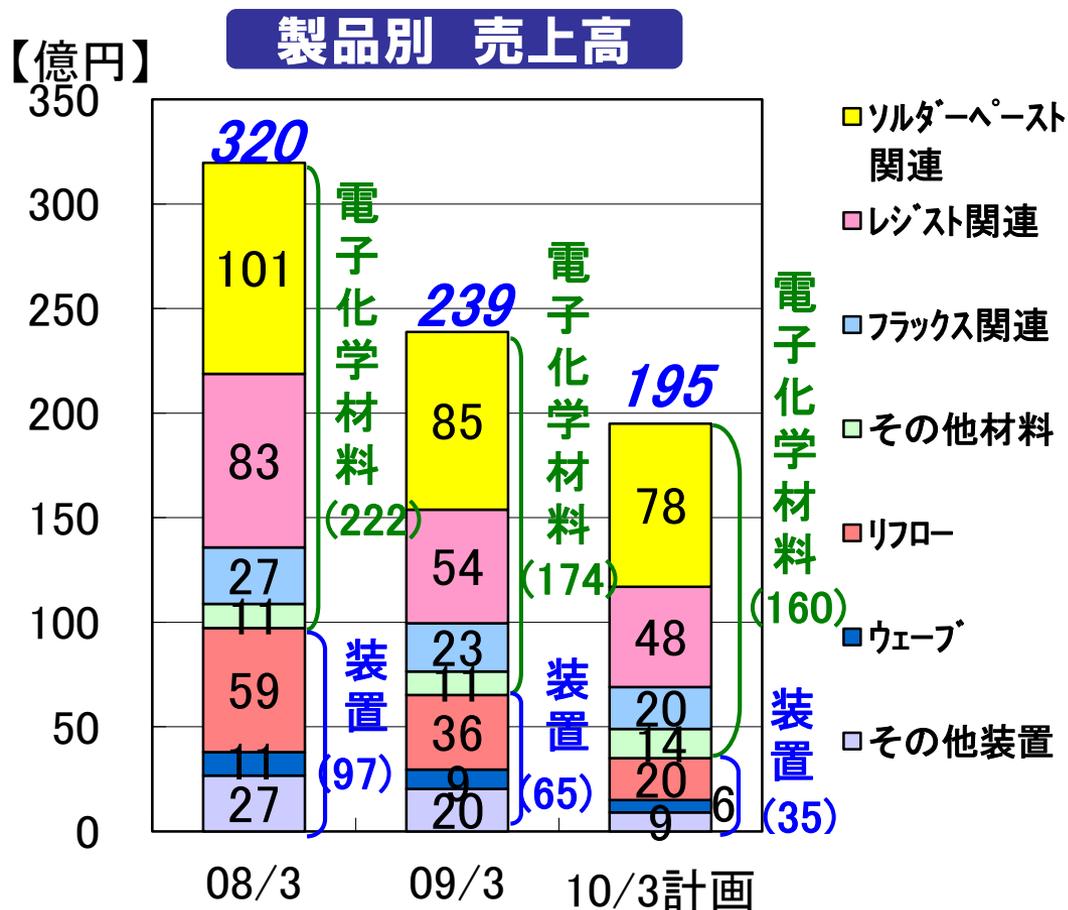
## 市場別 売上高

【億円】



\* 今回より「車載」の項目を追加した

- 車載市場の「完全鉛フリー化」への対応強化と更なる拡販
- LED製品向けなどの環境対応市場への製品群の強化と拡販
- 国内外の生産体制の再構築による原価改善・収益性の向上



- LED用各種材料
  1. 白色反射材
  2. 熱硬化型接合材料
  3. その他、LED向け新規材料
- 半導体向け材料の拡販
- 環境対応装置の拡販



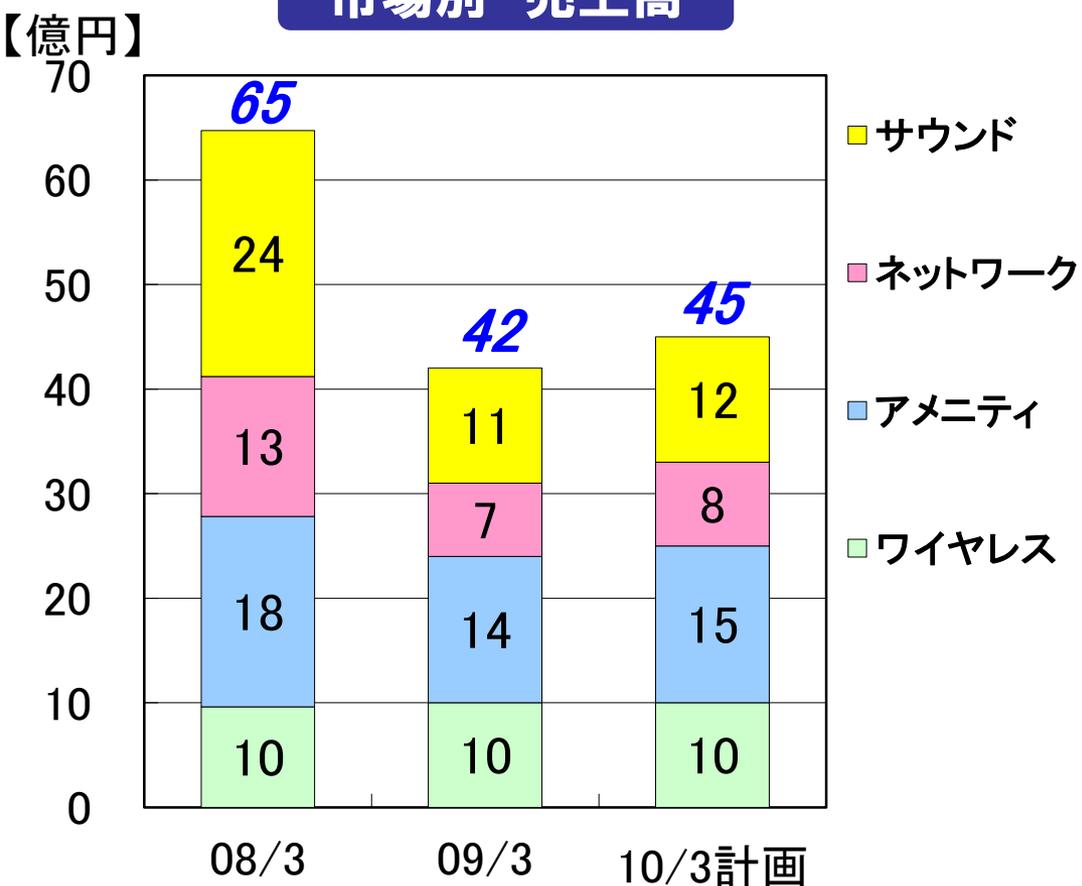
「ダクトレスユニット」



「はんだ付け用ダクトレスN2リフロー」

- ▶ 放送機器関連事業については、厳しい市場環境の背景をふまえ事業体制の抜本的な再構築を実践し、競争力の強化を図る
- ▶ 可視光・PLC通信などの多様なローカル通信技術を駆使した新製品の投入によるネットワーク製品群の拡販

## 市場別 売上高



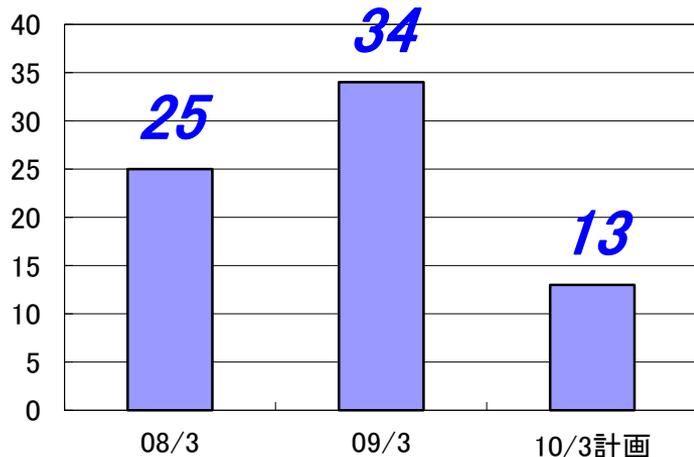
1. デジタルマイクの拡販
2. ローカルネットワーク製品の拡販  
(PLC、RFID、可視光通信等)
3. 放送機器は小型デジタル化製品で競争力強化を図る



デジタルポータブルミキサー  
12チャンネルタイプ: AMX-12D

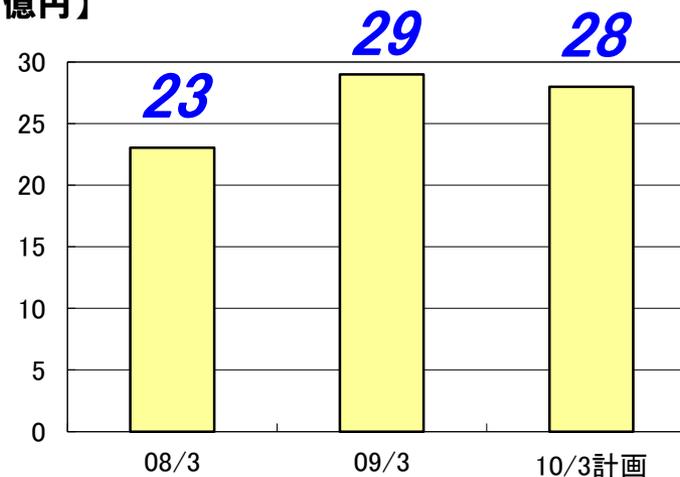
## 設備投資

【億円】



## 減価償却費

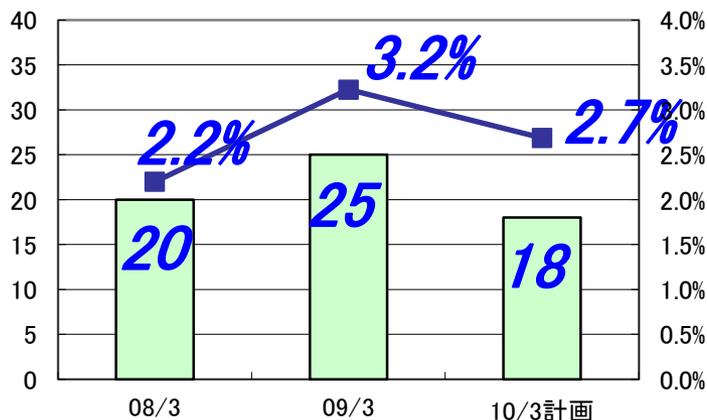
【億円】



## 研究開発関連費用

【億円】

試験研究開発費 (緑の棒) 対売上高比率 (青の線)



- ・投資効果を最大限に選択と集中
- ・新規事業領域開発

①次世代車載向け部品・材料

②LED関連製品

(素子・材料・照明製品・  
可視光通信などの応用製品)

- ・戦略事業関連開発

①産業機器向け部品

②圧電材料・応用製品

③半導体向け材料

# 弊社からのお願い

業績等の計画につきましては、現時点で得られた情報に基づいて算定しておりますが、実際の業績等は、市場の変化などにより計画と異なる結果になる可能性もあることをご承知おきください